

第34回

北前船寄港地 フォーラム

in ひがし北海道・
くしろ

世界三大夕日に集う食・人・歴史
ようこそ豊かな大自然に抱かれし宝の大地へ

併催 第5回 地域連携研究所大会

2024年 6月 28^金日・29^土日

主 催／北前船寄港地フォーラム in ひがし北海道・くしろ 実行委員会
協 力／一般社団法人北前船交流拡大機構・一般社団法人地域連携研究所
特別協賛／株式会社 S G C・宮坂建設工業株式会社・日本たばこ産業株式会社

ご挨拶



北前船寄港地フォーラム in ひがし北海道・くしろ
実行委員長／釧路市長

蝦名 大也

この度は、「第5回地域連携研究所大会・第34回北前船寄港地フォーラムinひがし北海道・くしろ」の開催にあたり、全国各地より多数のご参加を賜り、心より感謝申し上げます。

今回の開催地であります「ひがし北海道」は、「諏訪大明神画詞」に「日ノ本」と書かれた地です。

江戸時代には北海道厚岸町に蝦夷三官寺の一つ「国泰寺」が設置され、廻船業者でありました高田屋嘉兵衛が活躍した最前線の地でありました。また、北前船で全国各地に運ばれた昆布や魚肥などの出発地であり、「富の淵源」の地でありました。

そこで「日ノ本」の中心であり「富の淵源」であります「ひがし北海道」を会場に「北前船寄港地フォーラム」と「地域連携研究所大会」を開催することで、昆布をはじめとする食文化や地域の魅力の発信、また、寄港地をはじめ北前船と所縁のある地域間の連携と交流を深め、それぞれの発展に寄与していきたいと考えております。

結びに、今回の開催にご尽力を賜りました一般社団法人北前船交流拡大機構をはじめ、関係者の皆様に心よりお礼を申し上げますとともに、今後益々のご健勝とご活躍を祈念申し上げまして、歓迎のご挨拶といたします。



タンチョウ

国の特別天然記念物で、日本には約2000羽生息しているといわれ、そのほとんどが「ひがし北海道」に



米町ふるさと館

1900年に建てられた海産物商の店舗兼住宅の旧田村邸で、北前船とのかかわりがわかる資料も



まりも祭り

国の特別天然記念物で、釧路市阿寒町の阿寒湖に生息しているものがきれいな球体に。秋には保護を目的にアイヌ民族が中心になり儀式を

ご挨拶



北前船寄港地フォーラム in ひがし北海道・くしろ
特別顧問／北海道知事

鈴木 直道

「第34回北前船寄港地フォーラムinひがし北海道・くしろ」が開催されますことをお喜び申し上げますとともに、新緑が眩しい初夏の北海道に全国からお越しいただいた北前船関係者の皆様に心より歓迎申し上げます。

北前船主として名高い高田屋嘉兵衛は、択捉島開発の任を受けた幕臣の近藤重蔵からの依頼で国後島・択捉島航路を発見するとともに、漁場開発で手腕を発揮し、この地域の豊かな海産物は北前船で大阪をはじめ日本各地に運ばれました。このたび、嘉兵衛と深い縁がある「ひがし北海道」の釧路で本フォーラムが開催されますことは、北前船が様々な地域をつないでいたことを表すものであり、その歴史の深みを改めて感じさせてくれます。

蝦夷地から運ばれた昆布が、和食の根幹である「だし文化」を育んだ一方で、全国各地から伝えられた民謡が、江差追分やソーラン節として今なお北海道で受け継がれるなど、北前船は、経済交流のみならず、文化の架け橋でもありました。

長い歴史を経て、北前船の寄港地の皆様や、北前船とゆかりのある皆様が集うこの貴重なフォーラムが、時を超えて寄港地同士の連携と絆を一層深める契機となりますことを、大いに期待しています。

結びに、実行委員会をはじめ、本フォーラムの開催にご尽力された皆様に深く敬意を表しますとともに、ご参加の皆様の今後ますますのご健勝とご活躍を心から祈念申し上げます。

副実行委員長 釧路総合振興局管内 町村長紹介



釧路町長 小松 茂



厚岸町長 若狭 靖



浜中町長 齊藤 清隆



標茶町長 佐藤 吉彦



弟子屈町長 徳永 哲雄



鶴居村長 大石 正行



白糠町長 棚野 孝夫

関係者 ご挨拶



一般社団法人 北前船交流拡大機構
名誉会長

新田 嘉一

「第34回北前船寄港地フォーラム in ひがし北海道・くしろ」の開催 誠にありがとうございます。16年前、人口減少が加速する日本で地域が繁栄し続けるには広域での交流しかないとの強い思いから本フォーラムを始めました。それが、国内はもとより海外に拡大し、遂に太平洋側としては初めてここ釧路で開催され大きな喜びであります。貴市では昨年、アジアで初となる「アドベンチャートラベル・ワールドサミット(ATWS)2023」が開催されました。自然環境との共生が謳われる現代にあって、素晴らしいイベントと感動しました。

世界が目目するこの地でフォーラムが開催されることに敬意を表します。



一般社団法人 北前船交流拡大機構
評議員議長

石川 好

北前船寄港地フォーラムも今やヨーロッパのフランスやイタリアにまで足を延ばしている。これは機構事務局を始めとする関係者の熱意があったればこそその事。同フォーラムの発案者の1人として御礼を述べたい。今回は北の大地・北海道での開催となる。盛り沢山のプログラムとなっているので、参加者の皆様楽しんでいただけるものと確信しております。北前船フォーラムとは終わりのない運動体です。おそろおそろ酒田市に始まったこのフォーラムは観光という考え方に変更を迫るものでした。ビジットジャパンという言葉で定着させたのもこのフォーラムであったと自信をもっていう事が出来る。さあ、みなさん北海道を楽しみましょう。



一般社団法人 北前船交流拡大機構
会長

岩村 敬

北前船は、瀬戸内海、日本海沿岸の各地を經由して大阪・京都と北海道を結ぶ大動脈であり、物資と文化の交流に大きな役割を果たしました。とりわけ明治時代を迎えると北海道開拓を支える足として重要な役割を果たしました。北前船なしに今日の北海道の繁栄を語る事ができません。北前船寄港地フォーラムはこれまで海外を含め33回開催され、北海道でも、これまで3地域で開催されました。そして、今回が初めて太平洋側の都市での開催となりました。フォーラムの開催が北前船寄港地とともに観光回遊ルートに組み込まれるきっかけとなり、東北道の地域振興につながることを期待してやみません。



一般社団法人 北前船交流拡大機構 理事長
一般社団法人 地域連携研究所 理事長

濱田 健一郎

本日、多くの皆様にご参集いただき第34回北前船寄港地フォーラム及び第5回地域連携研究所大会inひがし北海道くしろを開催できますことに感謝申し上げます。本フォーラム開催の為にご尽力いただきました釧路市、釧路町を始めとしたひがし北海道の市長・町長、自治体の皆様、実行委員会・運営委員会の皆様により御礼申し上げます。一昨年10月に開催されたバリのフォーラムを契機にEUとの繋がりができ、今年4月には備前市の備前焼と大館市の曲げわっぱがイタリアはミラノで開催されたミラノフォーリサローネに出展し、当機構としては後援という立場で関わらせて頂きました。今後も伝統的工芸品などを通して地域の魅力を国内のみならず海外も巻き込んだ観光振興・地域振興に邁進する所存です。



北前船日本遺産推進協議会 会長
加賀市長

宮元 陸

第34回北前船寄港地フォーラム並びに第5回地域連携研究所大会inひがし北海道・くしろの開催を心よりお祝い申し上げます。本年元日に発生しました能登半島地震では、当協議会加盟自治体の輪島市、志賀町をはじめ北陸地域に大きな被害をもたらしました。当協議会関係者の皆様には、被災地に対し多大なるご支援をいただきましたことに心より感謝申し上げます。今後も「北前船」が各地に運んだ数多くの文化を活かし、地域活性化の取り組みを進めてまいります。今般の開催により、地域の交流が益々深まり、広域観光の活性・発展につながることを期待いたしております。

関係者 ご挨拶



一般社団法人 地域連携研究所 自治体会員制度会長
大館市長

福原 淳嗣

一般社団法人地域連携研究所では一昨年の北前船パリアフォーラムがきっかけとなり、欧州連合日本政府代表部や各国大使館並びに関係各位の絶大なるご支援により、地方の伝統文化や伝統的工艺品を直接、世界に発信する機会を頂いており、これまでの関係各位のご尽力に対し深く感謝申し上げます。

人口減少により国内市場が縮小する中でこそ地方が連携し、魅力ある地域資源を活用して世界に打って出ることには大変意義のあることと考えており、今回の釧路フォーラムでこの動きがより一層加速することを大いに期待しております。



一般社団法人 地域連携研究所 企業会員制度代表
株式会社ジェイアール東日本企画 代表取締役社長

赤石 良治

第5回地域連携研究所大会が、ここひがし北海道釧路にて開催される運びとなりました。日本海の荒波を越え、日本の各地そして世界にまで多くの交易と文化の発展をもたらした北前船の中でも、最も貴重な通貨の役割を果たした昆布のふるさと。多くの課題を抱える自治体と、課題解決のアイデアを持つ企業とがともに同じステージで互いの知見を集め、議論する場として最もふさわしい場所であることは言うまでもありません。今回もまた多くの地域と企業の皆様にご参加いただき、実りある真の地域創生につながることを期待しております。



一般社団法人 地域連携研究所 企業会員制度共同代表
日本航空株式会社 副会長

清水 新一郎

「ひがし北海道・くしろ」の開催を心よりお慶び申し上げます。また、本日は多くの皆様にご参加いただき、開催できますことを感謝申し上げますとともに、ご尽力を頂いた関係者の皆さまに心より御礼申し上げます。地域連携研究所は自治体と民間企業がそれぞれの強みや特性を活かし、相互交流を深め、未来につながる地域間交流の礎を築くことを目的としており、私どもJALグループも人やモノの移動を通じた関係・つながりの創出に取り組み「関係人口の人数増大」と「地域との関わり度の向上」を進め、地域の活性化を支援してまいります。



一般社団法人 北前船交流拡大機構 副会長
北海道旅客鉄道株式会社 代表取締役社長

綿貫 泰之

北前船寄港地フォーラム並びに地域連携研究所大会のひがし北海道・釧路開催にあたり、ご尽力いただきました関係の皆様へ心から感謝を申し上げます。開催地である釧路を拠点に十勝、オホーツク、根室と3方向に伸びている鉄道は車窓からの景色も素晴らしく、ノロック号を運転するなど観光線区としての魅力にあふれています。この地域がアドベンチャートラベルの聖地として多くのお客様にお越しいただけるよう、微力ではありますが、地元の鉄道会社として地域の皆様と共に取り組んでまいります。



一般社団法人 北前船交流拡大機構 副会長
東日本旅客鉄道株式会社 常務取締役マーケティング本部長

中川 晴美

「第34回 北前船寄港地フォーラム in ひがし北海道くしろ」の開催にあたり、ご尽力いただきました皆様へ心より感謝を申し上げます。

北前船ゆかりの観光資源・遺産を活用した地域間のネットワーク構築や、地域活性化に向けた様々な取り組みが、各地で広く展開されていることを大変意義深く感じております。今回のフォーラム開催を契機に、関係する皆様の交流・連携を一層促進させ、地方創生の更なる推進につながっていくことを祈念いたします。



一般社団法人 北前船交流拡大機構 副会長
株式会社ANA総合研究所 代表取締役社長

切刀 秀記

地域を活性化するには地域同士が結びつき力を合わせる事が大切です。今回の釧路大会は、関係するみなさまのご尽力で、「道東の各エリアから列車にのって駆けつける」という大がかりな演出が施されることとなり、鉄道ファンの私も楽しみです。多くの方が道東の広大さ、自然、食の良さを体験頂き、エリアのみなさんがこの大会で関係を一層深める機会が得られたのではないかと思います。我々ANA総合研究所も地域交流促進を活動の柱に据え、事務局としてこの活動を長く支えております。34回目を迎える歴史あるフォーラムの開催を心からお祝い申し上げます。

式次第【研究所大会】

第5回 地域連携研究所大会 in ひがし北海道・くしろ

2024年6月29日(土) 午前9時~正午

釧路市観光国際交流センター 1F大ホール

〈総合進行〉総務省事務官/出口 岳人
 〈司会〉ジェイアール東日本企画/大武 みなみ

- 一、参加者紹介 (一社) 地域連携研究所 専務理事/浅見 茂
- 一、主催者挨拶 (一社) 地域連携研究所企業会員制度共同代表・日本航空株式会社 副会長/清水 新一郎
- 一、来賓挨拶
- ①観光庁参与(元観光庁長官)・(一社) 地域連携研究所 特別顧問/田端 浩
 - ②株式会社木下グループ 代表取締役社長兼グループCEO/木下 直哉
 - ③株式会社MBSメディアホールディングス 代表取締役
 - 株式会社毎日放送 代表取締役社長/虫明 洋一

第1部

- I、ミラノフォーリサローネ出展報告 ※ミラノでの出展の際の動画を披露
- ①岡山県備前市長/吉村 武司
 - ②秋田県大館市長/福原 淳嗣
- II、EXPO2025大阪・関西万博に向けて ~国際交流と青少年交流~
 内閣官房国際博覧会推進本部事務局次長/長崎 敏志
- III、パネルディスカッション「北陸復興支援について」 ファシリテーター/出口 岳人
- 観光庁観光地域振興部観光資源課長/竹内 大一郎
 - 株式会社ジェイアール東日本企画 代表取締役社長/赤石 良治
 - 株式会社日本政策投資銀行 企業投資第3部 地域投資担当課長/西村 俊輔
 - 内閣府地域活性化伝道師 跡見学園女子大学 准教授/篠原 靖

第2部

- I、三木谷 浩史 特別講演
 楽天グループ株式会社 代表取締役会長兼社長 最高執行役員/三木谷 浩史
- II、自治体、企業を代表して
- ①北海道白糠町長/棚野 孝夫
 - ②一般財団法人日本スポーツ政策推進機構理事長/河野 一郎
 - ③株式会社フォーシーズ 専務取締役/清水 俊明
 - 取締役 専務執行役員/光岡 健世
 - ④新潟県佐渡市長/渡辺 竜五
- 一、閉会の挨拶 株式会社ANA総合研究所 取締役副社長/森 健明

※プログラムの内容は変わることがありますのでご了承ください。

三木谷 浩史 特別講演



楽天グループ株式会社
代表取締役会長兼社長 最高執行役員

三木谷 浩史

1965年神戸市生まれ。1988年一橋大学卒業後、日本興業銀行（現 みずほ銀行）に入行。1993年ハーバード大学にてMBA取得。日本興業銀行を退職後、1996年クリムゾングループを設立。1997年2月株式会社エム・ディー・エム（現 楽天グループ株式会社）を設立し、同年5月インターネット・ショッピングモール「楽天市場」を開設。現在、楽天グループとして、Eコマース、フィンテック、モバイル、デジタルコンテンツなど多岐にわたる分野で70以上のサービスを提供する。

前夜祭

日時：6月28日（金）午後4時30分から午後8時（昆布カットセレモニーは午後4時から）
場所：釧路市観光国際交流センター1F（釧路市幸町3の3）

開会式

開会、主催者あいさつ・エリア交流会歓迎委員会紹介・
日本遺産「北前船寄港地・船主集落」認定書授与・大会記念オブジェ発表・来賓あいさつ

全国交流会

開会あいさつ・参加者紹介・鏡開き・乾杯・特別来賓ゲスト

「世界三大夕日」観賞パーティー

炉ばたコーナーやキッチンカー・ステージ・あいさつ

レセプション

日時：6月29日（土）午後5時30分から午後7時30分
会場：釧路プリンスホテル2F（釧路市幸町7の1）

開会

来賓あいさつ

乾杯

次回開催地あいさつ

※プログラムの内容は変わることがありますのでご了承ください。

式次第【北前船フォーラム】

第5回 地域連携研究所大会 in ひがし北海道・くしろ

2024年6月29日(土) 午後1時~午後4時45分

釧路市観光国際交流センター 1F大ホール

〈ファシリテーター〉 一般社団法人 北前船交流拡大機構
参与/浜 名 正 勝

開会式

- 一、開会挨拶
- ① (一社) 北前船交流拡大機構 評議員議長/石 川 好
② 秋田県 副知事/猿 田 和 三
③ 北前船日本遺産協議会 5 2 自治体代表・倉敷市長/伊 東 香 織
- 一、来賓挨拶
- 観光庁 長官/高 橋 一 郎
北海道 知事/鈴 木 直 道
日本航空株式会社 取締役 専務執行役員/柏 頼 之
北海道旅客鉄道株式会社 代表取締役社長/綿 貫 泰 之
全日本空輸株式会社 取締役常務執行役員/矢 澤 潤 子

トークセッション

- ① 「昆布物語 総集編」
- 浜中漁業協同組合 代表理事組合長/山 崎 貞 夫
株式会社奥井海生堂 代表取締役社長/奥 井 隆 茂
釧路町長/小 松 茂
- ② 「高田屋嘉兵衛を通じて北前船船主の大きな役割を探る」
- 〈講演〉 札幌大学 教授/川 上 淳
〈パネルディスカッション〉 札幌大学 教授/川 上 淳
小樽商科大学 客員研究員/高 野 宏 康

パネルディスカッション

- ③ アドベンチャートラベルの聖地 - J R (ジモトレール) を利用した格別な体験へのご招待 -
- 環境省釧路自然環境事務所 所長/岡 野 隆 宏
株式会社北海道ネイチャーセンター 代表取締役社長/坂 本 昌 彦
合同会社大地のりんご 代表・一般社団法人 Connectrip 代表理事/道 山 マ ミ
株式会社釧路新聞社 代表取締役社長/星 匠
釧路市長/蝦 名 大 也
〈司会進行〉 北海道旅客鉄道株式会社 執行役員釧路支社長/戸 川 達 雄

総括

東武トップツアーズ株式会社 代表取締役会長執行役員
(一社) 北前船交流拡大機構 副会長/久保 成人

※プログラムの内容は変わることがありますのでご了承ください。

トークセッション

「昆布物語総集編」



1951年北海道浜中町生まれ。コンブ漁など漁業を営む。1984年に浜中漁業協同組合総代、2012年から代表理事組合長。2017年に北海道漁業協同組合連合会理事、2023年から釧勝地区漁協組合長会会長を務めている。

釧勝地区漁業協同組合長会会長
浜中漁業協同組合代表理事組合長
山崎 貞夫氏



1948年福井県敦賀市生まれ。三代目の奥井重雄さんのもとで修行し、1995年から代表取締役。2023年文化庁長官表彰。奥井海生堂は1871年創業の高級昆布専門店。産地の北海道に通い生産者との対話をして交流を深めている。

奥井海生堂
代表取締役
奥井 隆氏



1958年北海道釧路町生まれ。コンブ漁をはじめとする漁業に従事。1991年から釧路町議会議員、2003年から北海道議会議員、2018年から現職。

釧路町長
小松 茂氏

「高田屋嘉兵衛を通じて北前船船主の大きな役割を探る」



1954年北海道音更町生まれ。立正大学大学院文学研究科史学専攻修士課程修了後、根室市教育委員会に勤務、根室市歴史と自然の資料館主任学芸員などを務める。2005年、札幌大学文化学部助教授、2013年から現職。

札幌大学
地域共創学群教授
川上 淳氏



1974年石川県加賀市出身。神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科博士後期課程修了。国立歴史民俗博物館機関研究員を経て2013年、小樽商科大学に着任。全国各地の北前船遺産の調査研究、地域振興事業に取り組んでいる。

小樽商科大学客員研究員
北前船研究活用ネットワーク代表
高野 宏康氏

パネルディスカッション

「アドベンチャートラベル(AT)の聖地～ JR(ジモトレール)を利用した格別な体験へのご招待」



1997年に環境庁(現環境省)に入庁し、主に自然環境の保全を担当。レンジャーとして阿蘇くじゅう国立公園(阿蘇)、西表国立公園(石垣島)で現地勤務を経験。2023年から現職。学生時代に自転車で旅して以来、ずっと憧れていた道東の暮らしを満喫中。博士(環境学)。

環境省釧路自然環境事務所
所長
岡野 隆宏氏



1958年北海道函館市出身。東洋大学経済学部卒業。1993年に然別湖ネイチャーセンター(現北海道ネイチャーセンター)設立。2011年北海道体験観光推進協議会を設立し代表理事を務めるなど、北海道の体験観光の推進に尽力している。

株式会社北海道ネイチャーセンター
代表取締役社長
坂本 昌彦氏



千葉県出身。東京農業大学卒業。網走市で有機野菜加工などを手掛ける合同会社大地のりんごを起業。農山漁村体験を手掛けるConnecttripが昨年農林水産省・内閣府主催ディスカバー農山漁村の宝コミュニティ産地消部門優秀賞を受賞。

合同会社大地のりんご代表
一般社団法人Connecttrip代表理事
道山 マミ氏



1959年北海道釧路市生まれ。青山学院大学経済学部在学中に故・中川一郎元農相の秘書を務めたのを機に政治家の道歩む。釧路市議会議員、北海道議会議員を経て2008年に釧路市長。現在4期目。

釧路市長
蝦名 大也氏



1960年北海道釧路市生まれ。国鉄、JTBを経て1992年に釧路新聞社入社。記者、販売、企画などの部門を経て2016年から現職。趣味は鉄道。

株式会社釧路新聞社
代表取締役社長
星 匠氏



東京都出身。1991年東京大学教養学部卒業。JR北海道入社。2017年地域交通改革部長。地方路線のありかたや利用促進・コスト削減など地域協議を担当。2020年経営企画部長を経て2022年から現職。

司会進行・北海道旅客鉄道株式会社(JR北海道)
執行役員釧路支社長
戸川 達雄氏

地域連携研究所とは

「一般社団法人地域連携研究所」は2021年1月に、地域連携を進めるために設立された一般社団法人です。2007年から17年間、33回にわたり地方と地方の広域連携となる「地域間交流」をテーマに観光交流プロジェクトとしての「北前船寄港地フォーラム」を展開してきた「一般社団法人北前船交流拡大機構」の兄弟法人として設立されました。

「一般社団法人北前船交流拡大機構」は北前船ゆかりの土地の観光資源、歴史的遺産の魅力を発信しながら、地方同士の連携を深めることを目的に活動しています。この活動は、現在49自治体で構成されている日本遺産「荒波を超えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」(2017年認定)としても実を結んでいます。

これまでの経験、実績、信用をもとに北前船に限定することなく、広く地域の連携を果たすことを目的に、地域連携研究所が設立された次第です。従来からの「『大都市と地方』の関係で地方振興を図るのではなく、東京に頼らず『地方の地域同士』」が直接つながり、ネットワークを構築し地域の活力を生み出そう」という考えはそのままに、より広域の活動を担っていくものであります。

概要

一般社団法人地域連携研究所は、広く一般市民に対し、全国各地域に関する情報の発信、交流の促進、人材の育成及び地域連携の構築に関する事業等を行い、地域の活性化及び観光の促進を目的とし、その目的に資するため、次の事業を行います。

1. 全国各地域の活性化及び振興に関する事業
2. 全国各地域に関する調査、研究、情報の収集及び提供に関する事業
3. 講習会、セミナー、イベント等の企画、立案、運営および実施に関する事業
4. 文化および観光の振興並びに交流の促進に関する事業
5. 地域振興、地域連携の構築、国内外における交流促進等に関わる個人、団体等との連絡、相談、支援、指導及び連携に関する事業。
6. その他地域の活性化及び観光の促進に資するための一切の事業

沿革

2021年1月	一般社団法人として設立
2022年3月18日	自治体会員制度発足式開催（於 秋田）
2022年10月18日	企業会員制度発起人会発足式（於 パリ）
2023年2月2日	企業会員制度発足式開催（於 沖縄）

役員紹介

理 事 長	濱 田 健一郎
専 務 理 事	浅 見 茂
自治体会員会長	福 原 淳 嗣（大館市長）
自治体会員共同会長	大 森 雅 夫（岡山市長）
企業会員代表	赤 石 良 治（株式会社ジェイアール東日本企画 代表取締役社長）
企業会員共同代表	清 水 新一郎（日本航空株式会社 副会長）
特 別 顧 問	田 端 浩

北前船寄港地フォーラムとは

北前船寄港地フォーラムは、一般社団法人北前船交流拡大機構の評議員議長でもある石川好氏の「北前船コリドール構想(*)」に賛同した多くの自治体・企業などの支援により、2007年から日本全国で開催しているフォーラムです。

日本海側の寄港地連携、地域間交流による活性化を図る観光フォーラムとして実施され、民間レベルで開催される国内最大級のフォーラムとして認められています。また、2018年には中国・大連にて、2022年にはフランス・パリにて、海外でのフォーラムが開催されています。

2017年8月9日、同フォーラムを母体として、東日本旅客鉄道・西日本旅客鉄道・北海道旅客鉄道・日本航空・ANA総合研究所などが中心となり、一般社団法人北前船交流拡大機構が立ち上げられました。

同機構は、鉄道・航空を中心とした関連企業が地域活性化の分野で力を合わせることで、今まで以上に地域の発展に貢献するとともに、「地域間交流拡大」をより強力に推し進め、地域活性化や国内外からのインバウンド旅客の誘客拡大を目指しています。

(*) 北前船コリドール構想

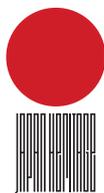
「北前船」は江戸時代から明治20～30年代まで北海道・東北・北陸・関西・九州を結ぶ重要な物流のネットワークとしての機能を果たしており、100年ほど前には日本海側に立派な経済圏が存在していました。コリドールとは人と物が行き交う通路・大通り・回廊を意味し、かつて日本海側が栄えた「北前船寄港地」ルートを点から面へ、回廊として発展させようとするものです。

フォーラム開催状況

回	開催都市	開催日	テーマ
1	山形県酒田市	2007/11/15	北前船文化遺産の活かし方
2	秋田県にかほ市	2008/4/11	現代の北前船を探そう～地域の連携を強化して～
3	秋田県男鹿市	2008/9/20	甦れ 北前船が拓いた夢航路
4	北海道松前町	2009/5/22	新時代の、北前船浪漫を求めて
5	新潟県新潟市	2009/7/17	北前船スピリット再び～新潟県に今、求められるものは～
6	新潟県佐渡市	2010/3/20	今、佐渡観光に求められるもの
7	青森県青森市	2010/5/28	第1部「国際的視点で青森県の観光振興を考える」・第2部「県外・県内から青森県の観光振興を考える」
8	青森県鯉ヶ沢町・深浦町	2011/5/28	甦れ!北前船の絆を今に!～連携による地域活性化と構成への伝承の第一歩～
9	北海道函館市	2012/5/25	受け継がれる北前船マインド(絆)～これからの観光のあり方～
10	新潟県長岡市・寺泊	2012/9/28	世界へ広がる海の道、これからの北前船～日本海側の広域連携と世界へ向けた可能性を探る～
11	山形県酒田市	2013/3/8	北前船遺産を日本と世界に発信!!～庄内の発展と北前船～現代に生きる北前船～
12	秋田県男鹿市	2013/7/26	秋田県男鹿市の観光と産業の発展～ロシア/韓国/中国との交流促進～エネルギー・環境と今後の秋田の産業について～
13	新潟県新潟市	2013/10/25	日本海軸と国土の強靱化一拠点としての新潟～日本海新時代と新潟～<新潟日報メディアシップ開業記念>
14	秋田県秋田市	2014/4/18	活かそう、大いなる遺産。いま、知と勇のネットワーク～秋田を輝かせる人たち30人～未来につながる観光!秋田の夢・希望～
15	京都府宮津市	2014/7/25	つなぐ・結ぶ～北前船からの贈り物～貴重な歴史遺産「北前船」を活かした広域連携を考えよう
16	大阪府大阪市	2015/7/17	北前船出発の地 大阪から!～現代版北前船 新・日本海ネットワーク2015～
17	石川県加賀市	2015/11/13	北前船文化とおもてなし
18	北海道江差町	2016/11/11	日本の浪漫、北前船が北海道新幹線で甦る!～今こそ繋ごう!観光の絆と言う地方創成新時代～
19	兵庫県淡路島	2017/5/12	人の交流による地域創生
20	岡山県(岡山市・瀬戸内市・倉敷市・玉野市)	2017/7/14	古(いにしえ)からの交通の大動脈鍵「瀬戸内海」と国際交流～そして未来へ～
21	青森県野辺地町	2017/9/1	むつ湾でつながる観光～現代の北前船で考える広域観光～
22	鳥取県鳥取市	2017/11/24	来たまえ!!環日本海新時代～北前船レガシー 友情・平和・交流の海へ～
23	中国 大連市	2018/5/27	海を越えた交流の拡大へ 日本と中国の架け橋に
24	福井県坂井市	2018/7/13	日本遺産で甦る、観光と文化の北前船新時代～港民が紡ぐ異空間 湊・三国スタイル～
25	新潟県長岡市	2018/8/31	北前船でつなぐ寄港地交流～米百俵の精神を次世代へ～
26	広島県尾道市	2018/11/16	名産品でつながる北前船寄港地～地域間交流新時代の幕開け～
27	山形県庄内地区	2019/9/12	北前船が紡ぐ、新たな日中地方都市間交流
28	北海道小樽市・石狩市	2019/10/20	北前船往来～日本の案英と近代化を支えた絆をふたたび～
29	鹿児島県鹿児島市	2020/2/2	明治維新の力・北前船で広がる交流の輪～令和の新たな輪は海を越えて
(※)	島根県浜田市	2020/3/14	歴史・文化を活かした地域活性、地方の観光新時代
(※)	中国 大連市	2020/5/24	———
30	秋田県秋田市	2022/3/19	北前船で旅した秋田蘭画～つなげる・つながる世界と未来～
31	フランス パリ市	2022/10/18	日本の食文化を世界に
32	沖縄県那覇市	2022/2/3	北前船、新たな船出へ～万国津梁の地、沖縄からアジア、そして世界へ～
33	岡山県(岡山市・倉敷市・瀬戸内市・備前市・玉野市)	2023/10/5	北前船と吉備の穴海～海と川が織りなした文化・産業～晴れの国・岡山から世界へ

(※) 新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止となりました

日本遺産「鮭の聖地」の物語 ～根室海峡一万年の道程～



※日本遺産とは

地域の歴史的な魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」として文化庁が認定します。これまでに「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集

落」をはじめ、104カ所認定されています。

当フォーラムの会場であります「ひがし北海道」では、標津町、根室市、別海町、羅臼町にまたがる根室海峡沿岸が『「鮭の聖地」の物語～根室海峡一万年の道程～』として認定されています。

根室海峡は1万年前から絶えず人の営みがあり、その生活を支えてきたのが川で生まれ海で大きく育つ鮭（サケ）です。毎年秋になると繰り返される鮭の遡上は、人と自然、文化と文化の衝突や交流を促し、数々の物語が生まれました。その一方で、海路、陸路、鉄道、道路という「路（道）」が生まれ、産業の発展に寄与しました。根室海峡沿岸は、あらゆるものが鮭とつながる聖地として日本遺産に認定されました。



1万年まえから数々の物語を生んできた鮭は、アイヌ民族の言い伝えで「知床の沖にいるカムイ（神）からの贈り物」



根室海峡に突き出た日本最大の砂嘴「野付半島」は、日本の「東門」と言われ千島列島とつながる「路（道）」の役割も

北前船寄港地フォーラム in ひがし北海道・くしろ実行委員会

役 職	名 前	所 属
実行委員長	蝦名大也	釧路市長
副実行委員長	小松茂	釧路町長
	若狭靖	厚岸町長
	齊藤清隆	浜中町長
	佐藤吉彦	標茶町長
	徳永哲雄	弟子屈町長
	大石正行	鶴居村長
	棚野孝夫	白糠町長
実行委員	栗林定正	釧路商工会議所会頭
	中山勝範	釧路観光連盟会長
	藤井芳和	釧路観光コンベンション協会会長
	平間育子	釧路市女性団体連絡協議会会長
	山崎貞夫	釧勝地区漁業協同組合長会長（浜中町漁業協同組合代表理事組合長）
	秋森新二	釧路昆布普及協議会会長（散布漁業協同組合代表理事組合長）
	山田一徳	釧路市物産協会会長
	小船井修一	ひがし北海道ブランド化推進協議会会長
特別顧問	鈴木直道	北海道知事
相談役	浜名正勝	北前船交流拡大機構参与